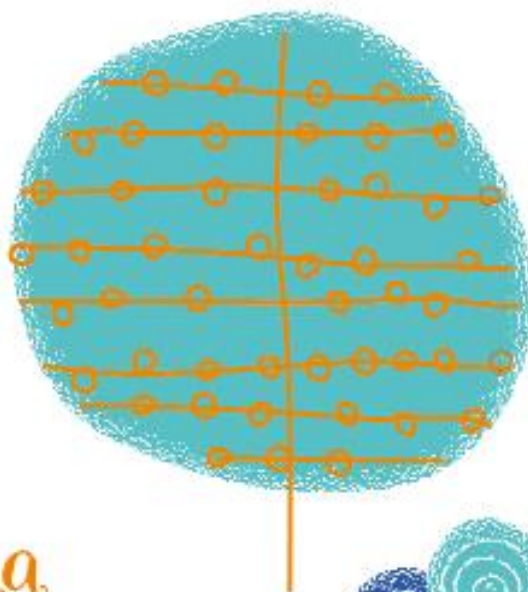


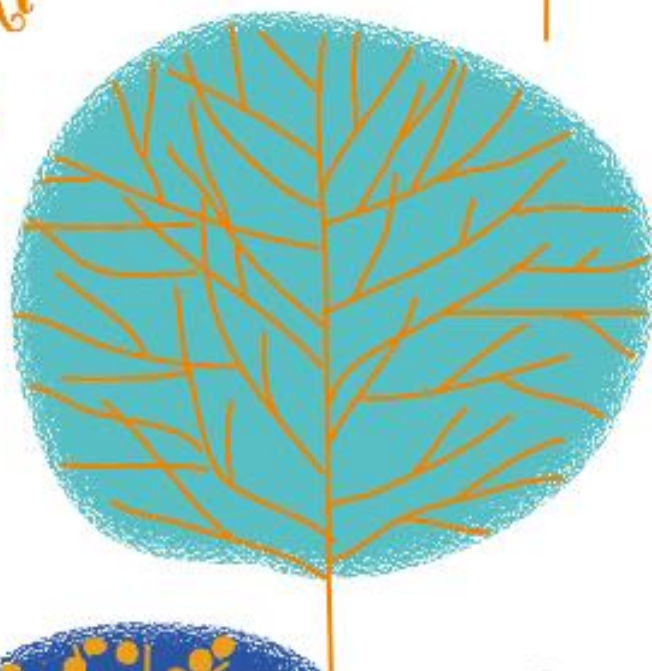
社会福祉法人 種の会 もみじやま保育園  
〒164-0001 中野区中野 1-58-9 (仮園舎)  
Tel 03-3365-0602  
ホームページ URL <http://www.tanenokai.jp/>



Momijiyama  
ArteKodomotoki

えんどうより

8



感染が全国へと広がりつつある中、区内でも感染が間近に迫っている危機感があります。園としてできる対策をとりながら、子ども達の生活を守っていききたいと感染予防に努めています。引き続き、指手消毒や検温等、健康確認のご協力をお願い致します。

コロナ禍の今年度は、誕生会や年中行事のあり方も様々な配慮をしながら進めてきました。日本の伝統文化の継承や日々の生活からつながる行事は、子ども達の楽しみでもあり、年長児にとっては保育園最後の経験ともなります。運動会など今後予定している行事につきましても、感染拡大の状況を踏まえ、感染予防の手立てを講じて開催していききたいと考えています。

延期としていた保護者会も、コロナが落ち着いた頃にと考えておりましたが、状況が良くなる兆しはみえません。新園舎の建築も進んでおり、移転と新たな環境についてお話ししたいと考えております。消毒や換気、席の間隔等に留意し、年間予定にない日程となりますが、今月末と来月始めに開催日を設けますので、ご参加下さいますようお願い申し上げます。

### 異年齢児のふれあい

誕生会は、ほぶら組5名と担任以外の先生がプランナーとしてチームを組み企画します。今年度はコロナの影響で、先月ようやく実現することができました。7月はマジックショーでした。誕生会でのほぶら組の姿は、年下の子ども達の憧れともなります。

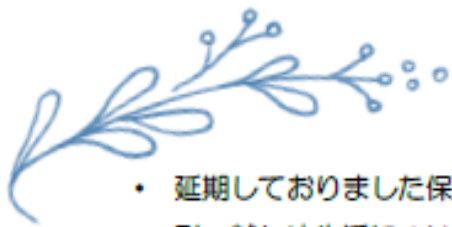
乳児のみの誕生会では、初めてホールで参加したつくし組の女の子が、嬉しそうに立ち上がり、会場の端で待機していたほぶら組の男の子に近づきます。「可愛い〜」「小さい…」思わずつぶやくほぶら組のお兄さん。そっと人差し指を差し出し優しい眼差しを向けます。その指を軽く握る女の子。何気ないやりとりですが、心の通う瞬間でもあります。園庭でも、テラスで遊んでいる赤ちゃんとのふれあいは良く見られる光景です。異年齢児の関りは、よちよち歩きの小さな子ども達の世界を広げていきます。

同年代では感情をありのまま友だちにぶつけることもしばしば。ぶつかり合いながら関わり方を学んでいるのですから、大切な経験です。年上の友だちとでは少し様子が違うようです。あすなろ組の男の子が、ほぶら組のドッチボールに入りたいようですが、「ルールが分からないからダメ」と言われ、困惑顔。一緒に遊んだことのある子が、「〇〇くん、ルール知ってるよ」と言ったことで入れてもらえました。お互いの了解を得て、混ざり合って遊ぶ姿は堂々としていました。お兄さん達と遊びたい！そう思う気持ちが、感情をコントロールし、小さな社会の一員としてのふるまいになっていくのではないかと感じたエピソードでした。

異年齢児のふれあいや関わりは、お互いの成長に影響を与えます。日常の生活で、こうした自然な関わりが生まれる環境を大切にしたいと考えています。コロナ禍で予防策が必要である今だからこそ、子ども達の健やかな心の育ちに心を留められる保育を目指したいと思います。

園長 山田 寿江





## お知らせ

- 延期しておりました保護者会を開催致します。（詳細は別紙参照）新園舎への引っ越しや生活についてお伝えしますので、参加のご協力をお願い致します。コロナの状況によっては再び変更の可能性がありますことをご了承ください。
- 登降園アプリ（チャイルドケアウェブ）のメール機能は、現在使用しておりません。欠席等の連絡は必ずお電話にてお願い致します。
- 感染予防のため、玄関での検温、手指消毒、部屋前での受入れを引き続き行いますのでご協力ください。また、ご家族で体調不良の方がいる場合は、お子様の登園もお控え下さい。
- 夏休み（お盆休み含む）の予定が決まりましたらお知らせ下さい。9月以降に夏休みを取られる場合もお伝えください。  
※給食数の調整を致しますので、ご協力ください。

よろしくお願い致します。



August 8 2020						
sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
						1
2	3	4 運動あそび	5	6 音楽あそび 0歳児健診	7 発育測定	8
9	10 山の日	11 運動あそび	12	13 音楽あそび 0歳児健診	14	15
16	17	18 運動あそび	19	20 音楽あそび	21 避難訓練	22
23	24	25 運動あそび プールおさめ(中止)	26 8月の 誕生会	27 音楽あそび	28	29
30	31 保護者会 (3歳)	9月1日 保護者会 (0,1,4歳) 引き取り訓練	9月2日 保護者会 (2,5歳)			

# つくし組

安心して楽しく過ごせる場所になるといいな

入園当初は泣いていることが多かった子ども達も、今ではすっかり表情が和らぎ、笑顔がよく見られるようになりました。

最初は受け入れて抱っこした保育士から離れようとせず姿が見えなくなると泣いていましたが、そのうち保育士の側で気に入った玩具を手に一人で遊ぶようになり、少しずつ行動範囲が広がりました。最近はお友達にも興味を示して一緒に遊んだりするようになってきています。



受け入れ時には自ら手を伸ばして保育士の元に来ると、それまでの泣き顔がうそのよう。ようやく信頼関係の第一歩を踏み出せたのかなと嬉しさでいっぱいになります。

人との関わりが始まったばかりの子ども達にとって、保育園が楽しみな場所になるように、一緒に過ごす時間を大切にしていきたいと思います。



低月齢の子どもは上体を起こして座ることができるようになり、ハイハイで自分の行きたいところに向かい、お友達や保育士とふれあっています。言葉は交わせなくても目や表情で楽しさを共有しているようです。



高月齢の子ども達は、年上の子ども達と過ごすこともあります。1歳児クラスの子ども達と活動する中で刺激を受け、遊びもだんだんと活発になってきました。

担任以外の保育士や職員にも慣れてきたので、抱っこをされたり遊んでもらったりするとご機嫌です。また、送り迎えの際には、お友達のパパやママにも笑顔でバイバイやタッチをして関わりを楽しんでいます。



『びよーん』『くだもの』など自分で選んだ絵本を保育士に手渡し「読んで」とリクエストするなど、自分の意思を伝える姿も増えてきました。

また周りの様子もよく見ていて、保育士が箱の車を引っ張って遊んでいると一緒に引いて遊ぶなど、子どもたちには私もやってみたいという気持ちが芽生えています。

周りの人をしっかり見て、どんどん吸収していく子ども達。私達大人は、そんな子ども達に恥ずかしくないよう、立ち振る舞いを心がけていきたいものだと改めて感じる今日この頃です。



# ねむのき組



## 子ども会議 ～ぼくたちのママは？～

いつもは一人遊びを好みあまり友達と関わっていなかった T 君。この日もマットの上をジャンプして遊んでいると、たまたまそこに玩具を持った A さんがやってきました。するとそのまま2人でお喋りタイム…いつもと違う2人の雰囲気にも「何を話し込んでいるのだろう？」と保育者も耳を傾けていました。話の内容は「ママ」。T 君が「ママ」と話しかけると A さんが「ママおしごと」、再び T 君が「ママ」と言うと A さんは「ママくるよ」と答えたのです。

T 君は A さんの目をじっと見つめて話しかけているのに対して A さんはずっと玩具のご飯を見ながら話していました。T 君はこのやりとりが心地よかったようで、何度も何度も同じ質問をしました。その度に A さんは落ち着いた声で「ママくるよ」と返事をしていました。





### ぼくのポポちゃん

Eさんがポポちゃん人形を抱っこしているとA君がキラリーンと目を光らせていました。“ぼくの…”。いえいえ、使っていたのはEさんです。しかしポポちゃんへの愛が大きくなりすぎて目を離せないA君はひたすらにEさんを追いかけることに。ついにポポちゃんに手が届きますが、Eさんもポポちゃんを取られまいと必死に抱きしめながら守っていました。

保育園ならではのけんか。たくさん笑ってたくさん泣いて、自分やお友達の気持ちが分かる子に育ってほしいです。



自分だけではなく周りのお友達にも興味を持ち始めた子どもたち。その分ケンカもたくさんしますが気持ちを分け合えるようになってきました。言葉や表情で伝えあい、伝わった時には笑顔が溢れ、喜びが何倍にもなっている様子を見て私たちもとても嬉しくなりました。



# もみのき組

## ダンゴ虫さーん

公園に行くと必ずダンゴ虫やアリ、チョウチョなどを探す程、生き物に興味津々です。以前は気になるけれど怖い…という気持ちがあり、まずは枝や葉っぱをみつけてきて、チョンチョンと触っていました。楽しくなってくると力が入り、生き物もイタタタタ…という様子です。「みんなも叩かれたり、押されたら痛いでしょ、虫さんも同じ気持ちみたいだよ」という事を繰り返し伝えていくと、子ども同士で「虫さん痛いよ」「優しくして」と声を掛け合う様子がみられてきました。



公園でダンゴ虫をさがしているのになかなか見つからない様子。「先生ダンゴ虫は？」と聞きにきました。ダンゴ虫をたくさん見つけた友達がいたので「〇〇ちゃん、友達がダンゴ虫探しているみたい」と声を掛けると「こっちだよ、おいで」と声を掛け、葉っぱをめくって「ほら、いるでしょ」と教えてくれました。一人では見つけれなかった事も友達のをかりて見つける事が出来ました。とっても嬉しい気分になり、教えてもらった子は別の子に「みてダンゴ虫！！」と教えていました。

保育士が手の平にダンゴ虫をのせて、子ども達に見せると「あれ？触っても平気なの？」「怖い物じゃないの？」と顔を覗き込んできます。一人の子がダンゴ虫を自分の手の平にのせました。周りで見っていた友達は「すごーい」という表情になって「ダンゴ虫ちょうだい」と取り合いです。友だちの姿をみて真似したり、やってみたいという気持ちが広がっていきました。





## ほくも、わたしも使いたい！！



これで遊びたいけど友達が使っている。あの子が持っている物で自分も遊んでみたい。そんな時は「かして」と言葉で伝えられるようになってきました。しかし返ってくるのは「だーめーよ」。

「みんなのおもちゃだよ」「いっぱい使ってするい」などとどうにか貸してもらおうと考えています。

「今使ったばかり」「あっちにもあるよ」と貸せない理由も伝えています。どうすればいいかな??

「〇〇くんも使いたいように〇〇ちゃんも使いたいって」「終わったら貸してあげたら?」などと声を掛け様子を見守っています。少しすると「終わったらかしてあげるね」などと、もう一度伝える様子がみられてきました。

まだまだ自分の思いが強く、相手の思いを受け入れられないことが多いです。友達と関わる中で、わけ合ったり順番に使ったりする経験を重ねています。

## ・「先生やって〜」「先生がいい！！」

身の回りの事を自分で出来るようになったり、友達と遊ぶ事が楽しくなったりしていますが、まだまだ甘えたい時や、保育士との関りを求めたいときもあります。

友達と喧嘩した後、転んじゃった後、お父さんお母さんにあいたくなっちゃった…。気分によってもやる気が起きないことはあります。保育士の膝の上に座ったり、手を繋いだりしながら、周りの様子を見ていて… あれ?何か面白そうなことしていると思い、自分から仲間に入っていきます。

「先生やって」と言いに来る事もありますが、「ちょっとこれきついから」「なんか汗で脱げないよ」と、手伝ってもらいたい事を伝える様子もみられます。

十分に甘えたい気持ちを受け止めてもらうことで、子どもたちは安心して過ごし、興味を持って活動に参加できます。又、手伝ってもらった喜びを味わうことで、友達を手伝ってあげたい気持ちが生まれてきます。



# すぎのこ組



「〇〇ちゃん一緒にあそぼ」「△△くんが泣いてるよ」最近のすぎのこ組では、お友達の名前を呼ぶ声がよく聞こえるようになってきました。園庭に行く準備や帰りの支度をしているときには、お友達の様子を気にして声をかける姿も増えています。新しいお友達の名前を覚えたことや自分のことができるようになったことが自信となり、周りへの興味や関心が深まってきたようです。

やってみよう！のきっかけ

この1ヶ月、すぎのこ組では4つのグループに分かれて食事とおやつを食べています。自分のグループを覚え、同じグループの友達も覚えてきました。

「ばんばん持ちだよ」と友達に食具のすくい持ちの仕方を教えたり、「私も野菜食べる！」と友達の姿が刺激となって自分も“やってみよう”という気持ちが芽生えたり…。ついつい大人が声をかけたくなる場面でも、子どもはお友達の姿を見て学んだり気付く力を持っているのですね。





## 気になる存在

お友達大好き！なR君。最近は特にY君のことが気になるようです。大好きなY君の気を引こうと、あの手この手でアピールします。あるとき、Y君があそんでいたおもちゃをR君が素早く掴みました！Y君は、「返してよ〜」と怒るでもなく悲しむでもない声色です。Y君の表情を見てR君はおもちゃを返しました。すると…「返してくれてありがとう」とY君が一言。ふたりはまたそれぞれのおもちゃに戻っていきました。“どうなるかな〜”と見守っていた保育者にとって、思いがけないY君の優しい言葉に心があたたかくなる瞬間でした。



お友達との関わりが増えるほど、楽しいこともあればその分ケンカもたくさんあります。お友達との関わりの中で様々な感情が芽生えます。子ども同士の関わりを通して、自分の気持ちを伝えたり、相手のことを知ったり理解しようとする経験をします。子ども同士の対話を大切に、今後の成長をあたたかく見守っていきたいです。



# あすなろ組

元気に育ちますように！



つぼみ先生がプレゼントしてくれた2本のサツマイモ。品種はシルクスイートです。部屋に置いておくと小さな芽が出てきました。「このお芋、どうする？」保育者の質問に、「水につける。」「土に埋める。」と子どもたち。水耕栽培と土栽培を始めると、立派な葉が茂ってきました。そこで、伸びてきたツルを苗にしてサツマイモを育てることにしました。同時期に豆苗の観察も始まっています。切り落とした豆苗から新しい芽が伸びる様子にみんなびっくり！

## 豆苗はいったいどうなる？

「豆苗はどうなると思う？」保育者の質問に「土に埋めたら木になると思う！」とSさん。そこで、豆苗も土に植えてみることにになりました。サツマイモを丸ごと土に埋めた時のことを思い出し、植木鉢に底石を敷き詰めます。

「僕も！」「私も！」と、子どもたちが協力して、植え替えの準備が整いました。

## 牛のウンチ！？

「サラサラ～。」「気持ち良い。」と土の感触を楽しむ子どもたち。土の中に何か入っていることに気づき、保育者が袋の表示を読みます。

「赤土、牛ふん…牛ふんって牛のウンチだよ。」

「ひゃあ～！」

その場が騒然となりました。でも、土を触った手の臭いをかくと「良いにおい！」と、にっこり。ちなみに、子どもたちはいつもより入念に手を洗っていました！



## 大変、植木鉢がない！

芽の出たジャガイモも土に植えました。サツマイモの苗が一本残っているのに植木鉢が足りません。すると、「先生、袋があるよ。」とNさん。指さす先には土が入っている袋がありました！「縦に植えると大きいサツマイモが少し育ち、斜めに植えると小さいサツマイモがたくさんできるんだって。」と保育者が説明すると、「斜めが良い！」と、子どもたちの声がびったり揃います。

こうして最後の苗も無事に植え替えることができました。「お水をかける！」と意欲満々で、水やりの順番も子どもたちが決めていました。生まれた順で水やりをするそうです。



野菜の栽培や観察を通して友だちと協力し合ったり一緒に感動したりする姿が微笑ましく、子どもたちの思いに応えるかのように野菜が育っています。野菜を育てる中で子どもたちがどんな発見をし、どんな成長をしていくのかとても楽しみです。

## ミミズ事件



ある日、ミミズをかばんに入れてしまった子どもがいました。話を聞くと「飼いたかったの」とションポリしています。そこで、クラスでミミズについて話し合いました。「かばんに入れたら死んじゃうよ。」「かわいそうだよ。」「臭くなるよ。」「死んだらお父さんとお母さんに会えないよ（ミミズの）」など自分の考えを伝えたり、友達の意見を聞いたりしながら生き物の命を大切にすることを再確認しました。

ミミズにはお気の毒なことをしてしまいましたが、生き物の命について考える良い機会になりました。ミミズを飼いたいというお友達の気持ちも一緒に考え、責めることなく話し合いの場を持たせたことも良い経験になったと思います。



# ぽぷら組

## 森をつくろう

ぽぷら組になったら、部屋を大改造したい！とあすなろ組の時に提案がありました。どんな部屋にしようか？お化け屋敷だと小さいクラスのお友達が入れないし、、、と盛り上がっていましたが、その話はいつの間にか忘れられていました。

ある日、A君が「恐竜の森を作りたいな」と呟きました。恐竜好きが功を奏して、恐竜のケーキを作ったり、絵を描いたりしていたら、いつの間にか出現した森。。

“この森には可愛い妖精がすんでいるんだって” どんな妖精がいるのかな？公園に探しに行ってみようよ！こうなったらもう止まらないぽぷら組の想像力。



「大人には見えないたくさんの妖精がいたんだよ」

「でも大人には見えていないから絵を描いて教えてあげる」

「葉っぱをもっと多くして、妖精たちがかくれんぼ出来るようにしようよ」

そんな話をしながら森作りを楽しんでいます。

部屋にスランテープを張り巡らせ、木やどんぐり、まつぼっくりなども組み合わせました。鳥や虫も登場。一枚の絵からどんどん世界がひろがります。



制作をしている時は、自分のペースでゆっくり進められるようにしています。自分のイメージしたものを満足できるまで作りこむことで、自分の作品を大切にすることが出来ます。

これからも一人ひとりの意思や個性を尊重し、自信につながるようになっていきたいと思います。



### LaQ (ラキュー) って楽しいね

Q 最近の嬉しかったことは何かな？  
それはね LaQ が出来るようになったこと

『今まではブロックが好きだったけど細かいパーツを選んで組み立てていくのが楽しいんだよ』 そう言いながら説明書を見て作っていました。その集中力、創造力、表現力、... 『何を作っているの？』 『えっと、...』 話しかけても無視ではなく【無】なのです。

そして約15分後

『出来た！！これは〇〇で～の～～して』と止まらない説明。自分の作品を写真に撮ってもらうときの角度などのこだわりは、まるでプロデューサーのようです。自分のイメージしたものを自由に形に出来る喜び、その満足顔を見るのが毎日の楽しみです。



今月のうた

♪ドロップスのうた  
♪アイスクリームのうた



もみじやま保育園保健室

いよいよ夏真っ盛りとなりました。暑さに負けずに毎日げんきな子どもたちです。各ご家庭では、夏の思い出作りを計画されているかと思います。暑さ対策をしっかりとって安全に楽しく過ごしてください。

## 暑い夏を元気に乗り切るポイント

### 1. 水分補給

マスクをしているとのどの渇きを感じにくく、いつの間にか脱水症状を起こし、熱中症の原因にもなります。こまめな水分補給を心がけましょう。



### 2. 皮膚のケア

こまめに汗をふいたり、シャワーを浴びたりして、皮膚を清潔に保ちましょう。

### 3. 紫外線対策

外出時は帽子をかぶり、日焼け止めを塗るなどの紫外線対策も忘れずに。



### 4. 室温管理

室内でも熱中症は起こります。エアコンをじょうずに使いましょう。ただ、冷やしすぎには要注意。設定温度27~28℃を目安にしましょう。

## 外に出かける時の注意

密接、密集を避けるため外で過ごすことが多くなるかと思えます。次のような点に注意しましょう。

### 白っぽい帽子

ハチ類は黒や黄色いものを攻撃する習性があります。帽子は白っぽいものにしましょう。

### 長そで&長スボン

草木の多い場所に行くときは露出の少ない服装にしましょう。

### フリルのついた服は避ける

ひらひらした服は、ハチなどの虫を巻き込んでしまうことがあります。



### 虫よけスプレーを使いましょう

子どもは虫に刺されると異常に腫れあがる事があります。腫れたら冷やし、痛みが強い時は受診しましょう。

### ジュースを飲みながら歩かない

甘いにおいはハチ等を誘う原因にもなります。香水やヘアスプレーも危険です。

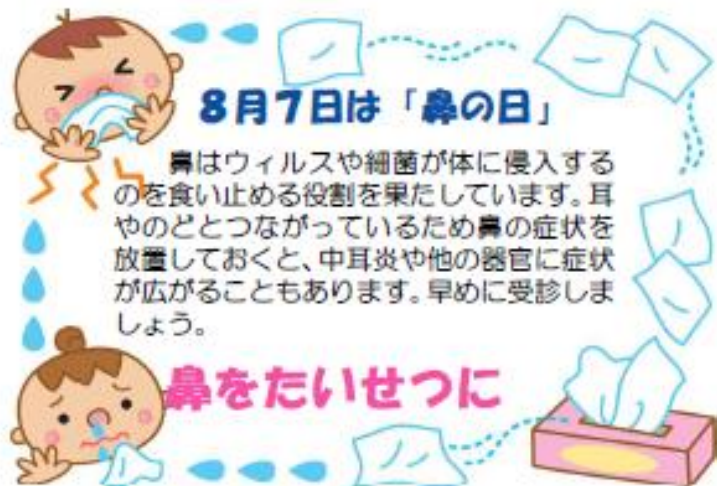
## 8月7日は「鼻の日」

鼻はウィルスや細菌が体に侵入するのを食い止める役割を果たしています。耳やのどとつながっているため鼻の症状を放置しておくと、中耳炎や他の器官に症状が広がることもあります。早めに受診しましょう。

### 鼻をたいせつに

## 今月の発育測定

8月7日(金)







# 食育だより



2020年8月

## 夏は水分補給が必須

水分補給の際は砂糖の取りすぎに注意が必要です。体内の糖分処理に必要なビタミン B<sub>1</sub>が消費され、不足すると疲れやすくなります。水分補給は、麦茶や番茶が望ましいですね。

## 夏に食べたいもの

- ・レタス、なす、きゅうり、トマト、冬瓜、苦瓜などの夏野菜は体を冷やしてくれます。
- ・豚肉、レバー、ウナギ、枝豆、ゴマ、にんにくなどはビタミン B<sub>1</sub>が多く疲れをとってくれます。



## おやつで大人気!お麩ラスク

【材料(4人分)】 【作り方】

- 小町麩 30g
- バター 30g
- 上白糖 30g
- 水 小さじ2

- ①バターと上白糖を鍋に入れ弱火にかけ溶かす。
- ②①に水を加えてさらによく混ぜる。
- ③ボールに小町麩を入れ②を少量ずつ加え全体に馴染ませ混ぜる。
- ④160℃のオーブンで片面5分ずつこんがり焼いたら完成。



## 8月7日は「バ(8)ナナ(7)の日」

食べるとすぐに糖質からエネルギー源に変身!  
消化と吸収がよくて、腸を整えてくれるから便秘の予防や改善にもなるんだ。  
体内の余分な塩分を排出するカリウムも豊富!  
\* むくみを解消する効果も期待できるんだよ。



甘くて優し〜い味のバナナ君 ♡

熟すと表面に現れる黒い斑点の“シュガースポット”が食べ頃の合図!



即効性と持久力が僕の持ち味さ!



## ヨーグルトと合わせて腸内環境を整えよう!

手軽に栄養がとれるバナナは、乳酸菌の豊富なヨーグルトと合わせると、整腸効果が倍増!  
バナナのオリゴ糖が乳酸菌を活性化させ腸内環境を整える効果があります。



## \*冷凍して♪バナナアイス♪\*

皮をむき1本ずつラップで包んで冷凍庫へ。数時間でシャーベットのできあがり!喉ごしが良くて食べやすく、食欲のない時にもオススメです!



バナナの保存 15~20℃位の風通しの良い所に山型に伏せる。暑い時期は新聞紙に包み冷蔵庫の野菜室で保存。

# Atelier



ほぶら組の子ども達が、誰も見たことのない「アト」や「ピコ」のカタチを紙粘土で作り、絵の具で色を塗っていた時のことです。

## 「子どもは共に探求する」

HさんとYさんは花の形をしたパレットを覗き込み「早く塗りたいね～」と話をしていました。今回準備した絵の具は、色



の三原色（赤・青・黄）。私が「赤・青・黄の三色があれば、ほぼ全ての色を作ることが出来ます。」そう話すと、二人は揃って「そんなの分かってるよ～！」と。絵の具の混色は、昨年から何度も経験しています。その元気な声を聴きながら、私は少し残念そうに一言付け加えました。「でも本当は、その三色でも作れない色が一つだけあるんだよ。」少し考えるとHさんが「分かった、白でしょ！」と答えます。Hさんは経験的に白が作れないことを知っていたようです。その時、隣のYさんがこう言ったのです。「白は、粘土が白いからそれでいいんじゃない?」。Hさんもそれを聴き「そっかあ～」と。そこにいた私は、目を丸くして二人の話をただ聴くばかりでした。

紙粘土に色を塗りながら、さらに二人は話しています。Hさんは「オレンジは赤と黄色を混ぜれば出来るけど、水色はどうやって作ればいいんだろう?」と言います。ほどなく笑顔が弾け「分かった、青と水!」そう言うやいなや、さっそくパレットの上で試します。



Yさんもその実験に興味を示し「もう少しお水を足したらいいんじゃない?」とHさんと一緒に筆に水を含ませパレットに流し込みます。

私はこの様子に本当に驚きました。二人の話や工夫は、まさに透明水彩絵の具の技法そのものです。互いの知識やアイデアを出し合い、それらを元の実験を繰り返し、伝統的な色作りの技法を自ら見つけ出しています。

思い返すと、今まで私は子ども達に知識を伝えようとするあまり、つい疑問の答えを示してしまいがちでした。しかし、子ども達が自分達のカだけでこれだけ探求を深めている姿を目の当たりにすると、私はもっと思慮深く子ども達に接する必要があると気付かされました。

子どもが子どもと共に考え探求するように、私達大人も子ども達と共に探求し、その素晴らしいさを共に分かち合いたいと思います。



Hさんの「アト」(左)とYさんの「ピコ」(右・手前が一番のお気に入り)

